

ケンタ、
再起動。
- 通算27号 -

「子ども」が「子供」か

ケンタの一撃！ 小泉チャウドレンでいい上を見て政策を変えたくない

「ケンタ君も小泉チルドレンに入ってんの？」

「いいえ、僕は新人ではないんで、ちょっとちやいます。強いて言えば、小泉チャウドレンです」

私が若いせいか、選挙区ではいまだに新人議員とよく混同される。

小泉チルドレンは衆議院自民党の4分の1以上を占める一大勢力であり、メディアへの露出も多い。

が、天邪鬼な私は「小泉チルドレン」と一括りにされなくてよかったと思っている。

たとえば先日、皇室典範改正を慎重にするよう求める署名が、新人82

人のうち34人しか集まらなかった。署名を集めた議員によると、「署名したいけれど、総理の方針に面と向かって歯向かいたくない」と言って断られるケースが多かったという。情けない！

私は小泉総理の目指す方向には基本的に賛同しているし、前回の選挙で総理の起こした風に助けられたのも事実だ。しかし、上の顔色を見て行動するような議員にはなりたくない。

だから私には「小泉チャウドレン」ぐらいがちょうどいい。国会議員はそれぞれが平等に一票を持ち、選挙民の代表だからこそ給料も平等なのだから。（雑誌キャサデーに連載中のコラムから要約）

松浪ケンタのプロフィール

衆議院議員 当選2回
(自民党の2期生では最年少)

【役職】

- 衆議院環境委員会理事
- 同 厚生労働委員会委員
- 同 議院運営委員会委員
- 自民党厚生労働部会副部長
- 同 環境部会副部長
- 同 新聞局次長

【経歴】

元産経新聞記者
昭和46年、大阪府出身。高槻市日吉台六番町在住、家族は妻と長女
清風高校を経て早稲田大学商学部卒

【特技・趣味】

プロボクサーライセンス取得、空手初段。ギター、オートバイ、魚・カメの飼育、英語（TOEIC Aレベル）

松浪ケンタ後援会事務所

〒569-0804

高槻市紺屋町11-1 FKビル2階

Tel: 072-685-7188

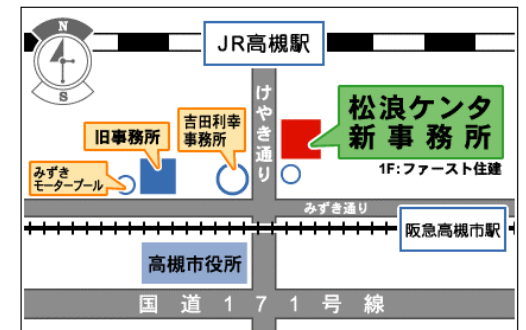
Fax: 072-685-7189

URL: <http://www.kentakenta.com>

E-mail: info@kentakenta.com

発行：自由民主党大阪府第十選挙区支部

責任者：上田 光雄 《部内討議資料》



大阪10区
(高槻市・島本町)

「子ども」が「子供」か

～ 厚生労働委員会で質問 ～

◆ どうして「子ども」なのか

「大臣、子供の表記は『子ども』と混ぜがきにされることについて、どうお考えですか」

3月10日に行われた厚生労働委員会で、私は川崎二郎厚生労働大臣に「子ども」という表記の問題について質問をしました。三位一体の改革と児童手当の拡充をめぐる法案審議の中で、法案に書かれる言葉遣いについても質問をしたわけです。

子供の表記は、新聞などでは主に「子供」、祝日は「こども」、福祉施設や学校関係では「子ども」と書かれることが多いのが現状です。「供」という漢字は小学校で習う常用漢字ですが、どうしてわざわざ「子ども」というように不自然な混ぜ書きがされるようになったのでしょうか。

実は「供」は人と共にあるという意味があります。だから、先人は「ばあい」という和語に「場合」という漢字を当てたように、「こども」に「子供」という漢字を当てたわけです。

しかし厚生労働省などに問い合わせてみますと、「供」はお供え物の感じがするとか、従者を連想するから封建時代の差別の感じがするなど理由で、「子ども」という表記が使われるようになったとの回答です。本音では「ども」をひらがなで書かないとクレームがくるから面づくさい、ということのようでした。

そんな根拠のない理由で、無批判、無検証に日本語のルールを変えるのはおかしいと思うのです。特に次代を担う大切な子供の表記なのですから。

◆ 「ら致」と「拉致」

私が新聞記者だった頃、「拉致」は「ら致」と書かれていました。「拉」は常用漢字ではないからです。当時、私はデスクにこの表記を巡って次のように直談判しました。

「別に『拉』は難しい字ではないのだから、書けなくても、ほとんどの人は読めますよ。逆にひらがなを使うと馬鹿にされているような気がします」

幸いその後は、新聞も「拉致」と表記するようになりました。当たり前の見識です。「子供」にも同じことが言えます。習った漢字をひらがなにされる小学生もおそらく同じ違和感を持っているでしょう。



質問前日の夜、厚生労働省の担当者と打ち合わせをする。急な質問だけあって、7人もの役人がやってきた。

＝ 3月9日午後九時、衆議院第一議員会館の自室

◆ 美しい日本語を伝えよう

私は大学生の頃に休学し、オーストラリアの小・中学校で日本文化を教えるボランティアをしていました。そのときに学んだのは、外国人から尊敬されるためには、武道や茶道、音楽、文学に代表される日本文化に通じていることであって、決してペラペラと英語を話すことではないということです。

私は現在、学生ボランティアの皆さんに感謝の意味を込めて作文指導をしています。高い学歴とは裏腹に貧弱な彼らの作文力に愕然としています。そこに我が国の教育の病巣を見る思いです。同時にその影が、キーボードでローマ字を打ちながらこの文章を作成している自分自身にも忍び寄っていることを実感しています。

日本語が疎かにされています。日本人は日本語でものを考えるのだから、これは恐ろしいことです。戦後の復興を支えた日本人は、美しい文字を書き、今よりもっと和歌などの風情を知っていました。国語力が数段高かったのです。

国際化の時代だからこそ、日本語の美しさや細やかさを見直し、守らなければいけません。小学校で英語を教えるよりも、まずは国語を見直すべきです。

松浪健太

動画配信

※今回の質問の動画が衆議院のHPで公開されています
→<http://www.shugiintv.go.jp/jp/index.cfm>

「発言者名」に「松浪健太」を選択して下さい